

平成 30 年度 M 1

医療概論Ⅰ「人間性教育」 & 医療・福祉現場でのふれあい等
(早期体験学習 Early Exposure)

オリエンテーション 資料

日 時 : 4 月 11 日 (水) 10 : 00 ~ 11 : 45
場 所 : 臨床講義室 A

オリエンテーション

日 時 : 4月11日(水) 10:00～11:45

場 所 : 臨床講義室 A

1. 医療概論 I 「人間性教育」について 10:00～10:15

コース Coordinator : 大原 信 (医学医療系)

斎藤 環 (医学医療系)

開講期間 M1 : 春学期、水曜日 4、5 時限

金曜日 4、5 時限

2. 医療・福祉現場でのふれあい等 (早期体験学習) について

各ユニットのガイダンス 10:15～11:45

コース Coordinator : 大原 信 (医学医療系)

斎藤 環 (医学医療系)

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1) 早期体験学習について | 10:15～ |
| | 大原 信 |
| 2) ユニット # 2 病院見学実習 | 10:25～ |
| | 大原 信 |
| 3) ユニット # 3 コミュニケーション実習 | 10:30～ |
| | 前野 哲博 |
| 4) ユニット # 4 | |
| サブユニット #1 リハビリテーション部 | 10:35～ |
| | 羽田 康司 |
| サブユニット # 2 救急実習 | 10:40～ |
| | 井上 貴昭 |
| 5) ユニット # 5 高齢者/妊婦模擬体験実習 | 10:45～ |
| | 渡邊 雅彦 |
| 6) ユニット # 6 研究室紹介 | 10:50～ |
| | 佐藤 豊実 |
| 7) ユニット # 1 医療・福祉現場でのふれあい | 10:55～ |
| | 柳 久子 |

開講期間 M1 : 春学期、火曜日 5～7 時限, 7月3日(火)～20日(金)

テュートリアル学習の進め方についてのガイダンス 高屋敷明由美

日時 : 4月13日(金) 13:45～15:00

場所 : M1 講義室 (臨床講義室 D)

目 次

1. 医療概論Ⅰ「人間性教育」について	1
2. 医療・福祉現場でのふれあい等（早期体験学習）について	
医療・福祉現場でのふれあい等 の概要	5
スケジュール 及び 担当教員	6
実習用グループ別名簿	7
附属病院ふれあい実習名簿	8
病院実習における必要な態度	9
コース Coordinator : 大原 信 (医学医療系)、斎藤 環 (医学医療系)	
ユニット#1 医療・福祉現場でのふれあい	10
サブユニット#1 附属病院ふれあい実習	筑波大学附属病院
Coordinator : 柳 久子、市川 政雄、堀 愛 (医学医療系)	
サブユニット#2 福祉施設等でのふれあい実習	学外福祉施設等
Coordinator : 柳 久子、市川 政雄、堀 愛 (医学医療系)	
サブユニット#3 外来新患エスコート実習	筑波大学附属病院
Coordinator : 大久保 英樹 (医学医療系)	
ユニット#2 病院見学実習	16
	筑波大学附属病院
Coordinator : 大原 信 (医学医療系)	
ユニット#3 コミュニケーション実習	18
Coordinator : 前野 哲博 (医学医療系)	
ユニット#4 リハビリテーション部、救急実習	20
サブユニット#1 リハビリテーション部実習	筑波大学附属病院
Coordinator : 羽田 康司 (医学医療系)	
サブユニット#2 救急実習	学群棟 3 階 4A303
Coordinator : 井上 貴昭、河野 了 (医学医療系)	
ユニット#5 高齢者/妊婦模擬体験実習	21
	4B 棟(看護・医療科学類)2 階 203
Coordinator : 渡邊 雅彦 (医学医療系)	
ユニット#6 研究室紹介	22
	学群棟 2 階 4A203
Coordinator : 佐藤 豊実 (医学医療系)	
筑波大学附属病院建物配置図、外来案内	23・24

【1】 医療概論Ⅰ「人間性教育」(Humanity Education)

コース Coordinator : 大原 信・斎藤 環

開講期間 春学期 水曜日・4～5 時限
金曜日・4～5 時限
発表会 : 6 月 27 日 (水) 4、5 時限
場 所 M1 教室 (臨床講義室 D)、4 階セミナー室等

1. 一般学習目標

- ・ 将来医師になる者としての自覚を持ちながら学習をする態度を身につけるために、医療の様々な側面を知り、患者の思いや立場に配慮しながら学ぶことの大切さを理解する。
- ・ テュートリアル学習を行う上で基本となるグループ討論、自己学習、レポート作成の方法を習得する。

2. 学習行動目標

- 1) 医療の目的、目標、必要性を述べる。
- 2) 医療の目標の高さ、崇高さ、困難さを述べる。
- 3) 患者にとって、身体・生活・人生、全てが医学・医療に大きく影響を受けることを説明する。
- 4) これから医学を学び、医療の専門職者を目指す者として個人を越えた目標を述べる。
- 5) 社会における医療の位置付けを説明し、最近の主な医療に関する社会的な問題の概要を列挙することができる。
- 6) グループ討論において、自分の意見を述べ、相手の意見を積極的に聞いて議論に参加し、メンバーの一員としての役割を果たす。
- 7) 自ら疑問点・問題点を挙げ、それを明らかにするための方法を述べることができる。
- 8) 学んだことを他者にわかりやすく説明する。
- 9) 医学生として、積極的に自己学習しようとする姿勢をもつ。
- 10) 基本的なレポートの構成を理解し、作成ができる。

3. 授業時間 及び 教室

【授業時間】 春学期 : 水曜日 4～5 時限 金曜日 4～5 時限

【教 室】 臨床講義室 D および 学群棟 4 階セミナー室・1 階 103, 104, 4D 棟セミナー室など

4. 授業方法

小グループによるテュートリアル授業 : 平成 30 年 4 月 13 日 (金) ～6 月 27 日 (水)

教科書および参考図書 (オリエンテーションで紹介) を活用して、コアタイム・グループ討論にのぞむ。

教科書 【改訂版】入門・医療倫理Ⅰ 赤林 朗 編 勁草書房

(4 月 13 日のオリエンテーションまでに購入して持参すること)

《学習の進め方》 *具体的な学習の進め方は 4 月 13 日 (金) 4 時限のオリエンテーションで説明する。

- ・ グループメンバー表および教室は、事前に M1 掲示板で確認する。
- ・ 5 つのテーマについて、2 回のコアタイム・複数回のグループ討論・自習の流れで学習する。(第 5 テーマのみコアタイムは 1 回)

コアタイムとは？

学生間の小グループで討論を行う時間

チューター（討論や学習の進め方の助言を行う教員）が同席する。

テーマごとの学習の流れ

① プレシナリオについて、予習を行う。（テーマ1はプレシナリオなし）

② コアタイム〇-1【〇はシナリオNo.】（チューターつき）：（指定のゼミ室）

各テュートリアル室グループメンバー間で自己紹介を行ったのちに、配布されたシナリオにもとづき、討論する。



③ コアタイム後の自習：

コアタイム1であげた学習項目について情報収集・自己学習を行う。



④ グループ学習（共有）（チューターなし）：自習で個別に学んだことを共有・確認し合う。分かったことから課題に戻り、更に調べることを討論する。（指定のゼミ室）

*第1テーマではグループ学習で行う討論を、コアタイム2でチューターの助言のもとに行う。



⑤ コアタイム〇-2【〇はシナリオNo.】（チューターつき）：（指定のゼミ室）

冒頭で、グループで実施したこと（共有できたこと、残された課題）をチューターに報告する。自習で学んだことを共有した上で、討論を深める。（テーマ5はコアタイム2の設定なし）



⑥ レポート作成：（自習を行う場所：教室、図書館など自由。）

ポートフォリオの整理、レポート作成（テーマ5はポートフォリオなし）

- ・レポートは自分の言葉でまとめる。資料のコピーアンドペーストは禁止（部分的なコピーも）、図表などを引用した場合には引用文献を記す。
- ・ワープロソフトを用いて作成する。

《全体演習について》

全体演習1 4月25日（水）4・5時限

- ・入学してからの学習および生活を振り返る。
- ・2～3人グループ（テーマ1のグループ内で分ける）で、テーマ1のレポートを、学生間で相互評価し、提出に向けての修正を行う。
- ・テーマ1のレポートを作成して3部（自分用・グループメンバー用）持参すること。

全体演習2 5月23日（水）4・5時限

3人グループで

- ・テーマ1～2における学習方法を振り返り討論する。
- ・「生と死」をテーマに演習ワークシートを用いて個人ワークおよびグループワーク、全体討論を行う。
- ・テーマ5の事前ワークが提示される。

《講義について》

テーマ5のコアタイムにおける討論の準備のために、医療に関する様々な分野で活躍する4人の医師（教員）による講義が行われる。（日程は時間割表参照）

大原 信先生（医療情報学）、斎藤 環先生（精神保健学）、井上 貴昭先生（救急・集中治療科）
野口 恵美子先生（遺伝医学）

《発表会について》

日 時 : 6月27日(水) 4、5時限

場 所 : 臨床講義室C、D

- ・各自、第1～4テーマのうち、最低1テーマの発表会に関わることになる。
- ・発表は各グループ発表6分、質疑4分、パワーポイントを使用する。
- ・発表会のスケジュール、テーマごとの発表担当グループ、および当日の司会・タイムキーパー担当者は、第4テーマ終了後(5月31日)に掲示する。発表担当を確認の上、グループメンバーと協力して準備を進めて下さい。

5. 医療概論 I 『人間性教育』の提出物について

1) コアタイム提出シート・グループ討論報告用紙(グループで1枚)

- ・コアタイム提出シートは、終了直後にチューターのサインを得た上で、提出する。
- ・グループ討論報告用紙: コアタイム1の後のグループ討論の報告書は、コアタイム2でチューターのサインを得て、コアタイム2提出シートと共に提出する。

(報告書用紙は、コアタイムではチューターから配布、グループ討論はPCME室職員が配布)

提出締め切り日: コアタイム実施日17時、

提 出 先: 2階 エントランスホール脇レポート提出ボックス

2) レポート・ポートフォリオ(各自) (テーマ5はレポートのみ)

ファイルの外側にテーマ番号(1～4)、グループ番号、学籍番号、氏名を必ず明記する。
学習報告用紙およびレポートにも、冒頭にグループ番号、学籍番号、氏名を明記すること。
(レポートは手元に電子ファイルまたはコピーを残しておく。)

提出締め切り日: テーマ1・4月26日(木) テーマ2・5月10日(木)
 テーマ3・5月22日(火) テーマ4・6月5日(火)
 テーマ5・6月21日(木)

各日とも17:00締切

提 出 先: 2階 エントランスホール脇レポート提出ボックス

3) 自己評価表

レポート・ポートフォリオの提出日に、エントランスホール脇レポート提出ボックスに提出する。

※各提出物の提出期限は必ず守ること

6. 評 価

コアタイム・グループ討論の出席、チューターによるコアタイムの評価、ポートフォリオ(レポート、学習報告用紙を含む)、発表会における発表内容・質疑応答を総合的に評価して、成績判定を行う。

※1) コアタイムの出席状況・態度に問題があった場合、2) グループ学習、全体演習、発表会に無断欠席した場合、3) 自己評価表・レポート・ポートフォリオが未提出のテーマがあった場合、D判定となり単位が認定されない(医療概論Iは進級における単位取得必須科目である)。

平成 30 年度 M1 人間性教育時間割表

	水	金
	4 月 11 日	4 月 13 日
4		医療概論Ⅰ オリエンテーション
5		医療概論Ⅰ コアタイム 1-1
	4 月 18 日	4 月 20 日
4	医療概論Ⅰ グループ(共有)	医療概論Ⅰ レポート作成
5	医療概論Ⅰ コアタイム 1-2	医療概論Ⅰ レポート作成
	4 月 25 日	4 月 27 日
4	医療概論Ⅰ 全体演習	医療概論Ⅰ コアタイム 2-1
5	医療概論Ⅰ 全体演習	医療概論Ⅰ 自習
	5 月 2 日	5 月 5 日
4	医療概論Ⅰ グループ(共有)	みどりの日
5	医療概論Ⅰ コアタイム 2-2	
	5 月 9 日	5 月 11 日
4	医療概論Ⅰ レポート作成	医療概論Ⅰ コアタイム 3-1
5	医療概論Ⅰ レポート作成	医療概論Ⅰ 自習
	5 月 16 日	5 月 18 日
4	医療概論Ⅰ グループ(共有)	医療概論Ⅰ レポート作成
5	医療概論Ⅰ コアタイム 3-2	医療概論Ⅰ レポート作成
	5 月 23 日	5 月 25 日
4	医療概論Ⅰ 全体演習	医療概論Ⅰ コアタイム 4-1
5	医療概論Ⅰ 全体演習	医療概論Ⅰ 自習
	5 月 30 日	6 月 1 日
4	医療概論Ⅰ グループ(共有)	医療概論Ⅰ レポート作成
5	医療概論Ⅰ コアタイム 4-2	医療概論Ⅰ レポート作成
	6 月 6 日	6 月 8 日
4	総合科目(フレッシュマンセミナー)	医療概論Ⅰ テーマ 5 講義(野口恵美子)
5	医療概論Ⅰ 発表会オリエンテーション (高屋敷(明))	医療概論Ⅰ テーマ 5 講義(大原(信))
	6 月 13 日	6 月 15 日
4	医療概論Ⅰ テーマ 5 講義(井上貴昭)	医療概論Ⅰ テーマ 5 講義または発表準備
5	医療概論Ⅰ テーマ 5 講義(斎藤環)	医療概論Ⅰ コアタイム 5-1
	6 月 20 日	6 月 22 日
4	医療概論Ⅰ 発表準備	医療概論Ⅰ 発表準備
5	医療概論Ⅰ 発表準備	医療概論Ⅰ 発表準備
	6 月 27 日(試験期間)	6 月 29 日(試験期間)
4	医療概論Ⅰ 発表会	医療概論Ⅰ 予備
5	医療概論Ⅰ 発表会	医療概論Ⅰ 予備

【2】 医療・福祉現場でのふれあい等

(早期体験学習 Early Exposure)

コース Coordinator : 大原 信・斎藤 環

1. 一般目標 G10

医学を学び始めるにあたり、医学・医療の一部に触れその目指す方向を垣間見ることで、医学への学習意欲を高める。

2. 学習行動目標 SBOs

- 1) 看護師の視点から入院患者の生活を述べられる。
- 2) 福祉施設、医療施設それぞれの働きを自分の言葉で述べられる。
- 3) 医療機関に働く各職種の人々に出会い、各職種の仕事内容の概要を述べられる。
- 4) 患者の問診の基礎を述べられる。
- 5) BLS (Basic Life Support) をすすんで行える。
- 6) 高齢者／妊婦の人々の身体的条件を述べられる。
- 7) 外来患者の視点で大学病院の外来診療を述べられる。
- 8) 医学研究者に出会い、研究の意義や楽しさを述べられる。

3. 学習方法

- 1) 病棟で看護師や入院患者と接する実習をする。
- 2) 夏休みの2日間学外の福祉施設、保健施設、医療施設を訪問し実習する。
- 3) 医事課、リネンサプライ／ランドリー、材料部／滅菌、厨房、リハビリ、臨床医療管理、医療情報、感染管理室、医療福祉支援センター、などを周り現場の人から話を聴いて話す。
- 4) 患者とのコミュニケーション実習を SP (Simulated (or Standardized) Patient) に参加してもらい行う。
- 5) トレーナーを用いて BLS (Basic Life Support) を実習する。
- 6) 高齢者／妊婦疑似体験用装具を用い実習する。
- 7) 夏休み大学病院外来で初診患者に付き添いその受診全てに付き合う実習を行う。
- 8) 基礎医学研究室、社会医学研究室、臨床医学研究室からの研究者の話を聴いて話す。

4. 早期体験学習時の服装、髪型などの注意点

若い医学生ですが、社会、特に患者さんから見たら立派な社会人であることを忘れてはなりません。皆さんの学習に協力してもらうことに報いるには、服装、髪型などに気を配るべきです。自分の好みを通すのではなく、周りの目から見て社会人としてごく普通であるようにということです。

また、言葉遣いや接しかたにも気を配るべきで、これらが医師としての大切な基本となってゆきます。具体的には、

- ・髪型：清潔で見苦しくないこと（極端な長髪や奇抜なヘアスタイル、不潔な印象を与えるものを避ける）。
- ・服装：清潔でこざっぱりとしていること（ファッショナブル過ぎたり、不潔な印象や奇抜なものを避ける）。
- ・靴：ヒールが低く、音のしないものが望まれる。
- ・言葉：丁寧な言葉遣いでゆっくりと話すこと。
- ・態度：学生ではなく、社会人としてふさわしい態度で接すること。

5. 評価

各ユニットの成績から総合的に評価する。ただし、D評価が1つでもあると単位認定されない場合があり、D評価が2つある場合は単位の認定はされない。（ふれあい実習は進級における単位取得必須科目である）。

スケジュール及び担当教員

実習用グループ別名簿

附属病院ふれあい実習名簿

病院実習における必要な態度

1. 服装・身だしなみ

- 白衣着用と名札を忘れずに
- 白衣の下は服装はカジュアルすぎないものを
- 服装は清潔で社会人らしさを心がける。
(サンダル・ヒールの高いものは不可)
- 靴音が響かない靴（運動靴など）が望ましい。
- ヘアスタイルも清潔感と万人に受け入れられるものを
- スカート等で、丈が短すぎるもの・長すぎるものはさける。
- 胸元の開いた服、かがむと背中が見えそうな服は避ける。
- 個々の実習場所により、服装について指示がある場合は、それに従う。

2. 言動

- 廊下、エレベーターは患者さまを優先して
- 廊下を横に並んで歩かない。
- 私語は慎む。(特に患者さまの前では緊張感をもつ)
- 実習中に見聞きして得た患者情報を他人に話さない。
- 実習先の教職員に先ずあいさつをする
- 携帯電話の電源は OFF にする。

3. 心構え

- 気持ちは医師に準ずる（社会人の）つもりで
- 遅刻をしない（集合場所は前もって確認を）
- 病院は患者さまには治療の場であり、教職員には職場です。周りを不愉快な気持ちにさせない様に気を配って下さい。
- 遅刻、欠席する場合は早めに連絡する。(附属病院実習の際の病棟の電話番号は実習名簿に掲載)

ユニット# 1 医療・福祉現場でのふれあい

Coordinator : 柳 久子、市川 政雄、堀 愛 (医学医療系)

サブユニット# 1 附属病院ふれあい実習

Coordinator : 柳 久子、市川 政雄、堀 愛 (医学医療系)

1. 学習行動目標 SBOs

- 1) 生活環境としての病棟を理解する。
- 2) 患者さんが社会的背景を持つことを知る。
- 3) 医療が組織として行われていることを知る。

2. 実習日程

実習に関するオリエンテーションを4月11日(水)に受け、その後、各学生が2回の実習を病棟で行う。各日とも実習は5, 6, 7限、19時15分ごろまで。

3. 実習内容

○実習1回目

15:15～ 教室(4A103)集合し、指定された病棟に移動
看護師より、病棟内構造を中心としたオリエンテーション(30分程度)
自分で病棟内を歩いてみて、住環境として病院がどのような所か、
自分の生活環境を思い浮かべて比較しながら観察、体験する。
想定していること : トイレは気持ちよく使える構造か、
病室の清潔度、広さ、プライバシーの守られ方、入浴設備の使いやすさなど
その後 病棟看護師の指示に従って実習を行う。
(～19:00)

想定されること : 食事の配膳、下膳、食事介助、食事量のチェック、
(例) 患者の移送(車椅子介助)、イブニングケアなど

○実習2回目

15:15 教室(4A103)集合し、指定された病棟に移動
～18:00 前回の体験をもとに、自分でさらに体験してみたいこと、
観察したいことなどを取り入れながら、看護師の指示に従って行動する。
患者さんに話しかけ、お話をうかがうなど、意識的に関わってみる。
18:05～19:15 学生全員と教員とでカンファレンスを持ち、個々の学生の体験を交換する。
(学群棟1階4A103)、3グループに分かれて実施予定。

4. 実習上の注意事項

- 1) 遅刻、欠席の場合には実習開始時間前までに病棟に連絡すること。
- 2) 動きやすい服(ズボン、スラックス、運動靴を心がける)を着用し、その上に指定のエプロンと名札を付けること。清潔で音をたてない靴を履くこと(ゴム底が望ましい)。スカート、胸元の開いた服、サンダル、つっかけ、かがむと背中が見えそうな服、はさけてください。
- 3) 病棟内には携帯電話、タブレット端末を持ち込まないこと。
- 4) 患者さんに対しては丁寧で、失礼のない言葉使いをすること。
- 5) 病棟で見聞きしたことは決して他に漏らさないこと(学生同士の話であっても、周囲で誰が聞いているか、分からない)。守秘義務があることを忘れてはならない。
- 6) 転倒したり、転落することないように、患者さんの安全には細心の注意を払うこと。
- 7) 病棟は患者さんの生活の場であることを忘れず、プライバシーを侵さないこと。

- 8) 病棟看護師の指示には従うこと。
- 9) 病棟に行ったとき、病棟から帰るとき、及びその他必要に応じて手を洗うこと。
- 10) 判断出来ないこと、困ったことなどあれば、病棟看護師または教員に相談すること。

5. 緊急連絡網（事故、その他）

緊急の場合には、病棟の責任者および担当教員に連絡すること。病棟に教員・ティーチングアシスタント（TA）がいない場合には（柳：PHS）（柳：携帯）へ連絡すること。

6. 担当教員

実習中は担当教員（柳、市川、堀）と TA が巡回し、必要に応じて指導を行う。困った点、疑問な点など遠慮なく話すこと。

7. 実習記録物

実習終了後にレポートを書くこと（A4レポート用紙に2枚以上・ワープロ可）。

テーマ：「医療・福祉現場でのふれあいー附属病院実習で学んだこと」

提出：2回目の実習終了翌週の火曜日 17 時まで、エントランスホール脇レポートボックスへ。

8. 評価

評価は出席、実習態度、提出物及び病棟側からの評価を合わせて行う。

サブユニット#2 福祉施設等でのふれあい実習

Coordinator：柳 久子、市川 政雄、堀 愛（医学医療系）

1. 学習行動目標 SB0s

- 1) 地域で健康障害や加齢によって看護・介護を受けている人達の特徴を述べる。
- 2) これらの人達の視点から、健康生活の維持・増進に必要な条件を述べる。
- 3) これらの人達を取り巻く家族や社会について説明する。
- 4) 医療・福祉・行政の枠組みと連携について述べる。
- 5) 医療・福祉に関わる人達とのコミュニケーションを通して、社会における医療の位置づけについて述べる。

2. 実習日程

掲示の通り。実習のオリエンテーションは7月2日（月）6時限に実施する。学生は3班に分かれ、7月3日（火）から10日（火）迄の間に、各班2日間ずつ、指定の機関または施設で実習を行なう。

3. 実習内容

[訪問看護ステーションでの実習]

看護師等の家庭訪問に同行し、看護の補佐をする。

[介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設、グループホームでの実習]

施設長、生活指導員または実習指導担当者の指示に従いながら、高齢者の介護を行なう。

実習内容の例：入浴介助（浴場までの誘導、衣類の着脱、浴場での入浴介助、髪を乾かす、爪切りなど）、食事介助（配膳、下膳を含む）、排泄介助（トイレまで誘導、おむつ交換）、レクリエーション指導補助、話し相手など。

デイケア部門では上記に加えて、車での送迎補助、訪問入浴など。

4. 実習上の注意事項

- 1) 遅刻・欠席の際には実習開始時刻前までに実習機関または施設に連絡すること。
- 2) 指定の服装をすること。華美でなく（色に注意）機能的で見苦しくない服装を心がけ、エプロン、名札（一部縫いつけの指示あり）を忘れないこと。着替えを用意すること。靴下をはくこと。手拭きタオル等を持参すること。
- 3) 指示のある施設で実習する学生は、上履き（運動靴）を持参すること。
- 4) 昼食は施設ごとの指示に従うこと。代金はリーダーがまとめて施設に支払うこと。
- 5) 対象者に対して失礼のない言葉づかいをすること。どんな障害、認知症があっても障害者、高齢者は一人の人間である。安易におばあさん、おじいさんなどと呼ばないように。
- 6) 実習中に見聞きした事は決して他にももらさないこと（学生同士の話しでも他に誰が聞いているかわからない）。
- 7) 対象者の安全には細心の注意を払うこと。特に必要があつてベッド柵をおろした時には、必ず上げる、人を乗せて車椅子を押しているときには前に傾けない、食事介助は相手の嚥下を確認しながらペースを考えて行なうなど。
- 8) 実習場は対象者の生活の場である。騒がしくしたり、プライバシーを侵さないこと。
- 9) 介助の前後には手洗いをすること。爪は短く切り、清潔に保つこと。
- 10) 判断出来ないこと、困ったことなどあれば、職員、TA、教員に相談すること。
- 11) 万一事故が起こった時には実習場の責任者にすぐに連絡すること。
- 12) 体調を整えて実習に臨み、実習中に居眠り（訪問看護の行き帰りの車中も含む）などをしないよう気をつけること。
- 13) 実習中携帯電話およびタブレット端末を携帯しないこと。喫煙は、本実習中に限らずつつしむこと。
- 14) 飲食、駐車、駐輪は施設側が決めた場所のみで行うこと。
- 15) 車酔いをする者は、あらかじめ対応すること（特に訪問看護）。
- 16) 施設職員や担当者などに、きちんと挨拶すること。

5. 担当教員：柳 久子、市川 政雄、堀 愛

担当教員およびティーチングアシスタント（TA）が実習施設を巡回します。疑問な点・要望は、遠慮なく話すこと。緊急連絡は（柳携帯、PHS）まで。

6. 実習記録物

- 1) 実習中2日間の実習日誌をつけること。日誌にはその日に体験したこと、感想、疑問に思ったことなどを記録する。
- 2) 実習終了後にレポートを書くこと（A4のレポート用紙に2枚以上、ワープロ可）。テーマは「医療・福祉現場でのふれあいー学外医療福祉施設実習で学んだこと」。
- 3) 実習に関するアンケート。

以上を実習終了後、下記の締切までにエントランスホール脇レポート Box まで提出すること。

（一班は7月11日（水）、二班は7月13日（金）、三班は7月17日（火）締切）

7. 評価

評価は出席、実習態度、提出物および実習場側からの評価を合わせて行なう。

参考資料

筑波大学附属病院 看護単位と診療グループ

けやき棟

東 11		
西 11		
東 10		
西 10		
東 9		
西 9		
東 8		
西 8		
東 7		
西 7		
東 6		
西 6		
東 5		
西 5 (MFICU)		
西 5 (NICU)		
西 5(GCU)		

B 棟

801		
701		
601		
630		
501		

A 棟	外来(1～3階)
C 棟	化学療法(3階)
C・D・F 棟	中診(1・2階)

筑波大学附属病院 病棟の流れ

サブユニット#3 外来新患エスコート実習

Coordinator : 大久保 英樹 (医学医療系)

期 間 : 平成 30 年 7 月 3 日 (火)、4 日 (水)、5 日 (木)、6 日 (金)、9 日 (月)、10 日 (火)、11 日 (水)、12 日 (木)、17 日 (火)、18 日 (水)、19 日 (木)、20 日 (金) 計 12 日間
学生は上記の期間中で 1 日実習を行う。

1. 実習の概要

筑波大附属病院初診患者の初診受付より会計終了までのエスコートをおこなう。

2. 学習行動目標 SBOs

- 1) 患者の視点から病院外来の診療システムを述べる。
- 2) 患者の視点から見たときの大学病院受診のメリット・デメリットにつき述べる。
- 3) 一人の患者の心情を述べる。
- 4) 初診担当医師の患者に対する態度を見学し、医師としてあるべき態度はどのようなものか述べる。

3. グループ分け

学生は各回 1 2 名程度とする。各回 3 つのグループにわかれ各グループにリーダーを 1 名を設定する。
指導教員は各グループに 1 名である。

4. 実習方法

- 1) 各回 1 2 名程度でおこなわれる。日程および担当教員名を確認する。
- 2) 夏休み実習のオリエンテーション時に概要が説明されるので趣旨を説明し病院の地理に通じておく。
- 3) 当日はロッカーへ荷物を置いた後に朝 8 時 15 分までに教室に集合し、担当教員より説明を受ける。
必ず担当教員への連絡方法を確認する。また、グループのリーダーの学生は担当教員に自分の連絡先を伝える。
- 4) 外来受付にて、教員より新患受付中の患者の紹介をうける。
- 5) 学生は自己紹介の上、新患受付より、会計終了時あるいは病院出口、患者に役立つと思われる場合は自動車等に乗車するまで患者と行動をとる。この間必要に応じて患者の補佐をおこなう。
- 6) 患者エスコート終了後、グループ長より担当教員にその旨連絡する。
- 7) エスコート中の行動、気づいたこと、感想を本実習の SBO を念頭においてレポートにまとめ、実習日翌金曜日 17 時まで (13 日は正午まで) にエントランスホール脇レポート Box まで提出する。

5. 注意事項

- 1) 清潔な服装・頭髪を心がけ、エプロンおよび名札着用のこと。
- 2) 患者が目上の存在であることを忘れず敬意を持って接すること。
- 3) 患者や周りの人を不愉快にさせることがないよう、きちんとした態度で実習に臨むこと。
(実習中の飲食、あくび等)
- 4) 患者の同意を得て診察に立合う際には、外来担当医師に自己紹介し、立合いの是非について尋ねること。
- 5) 歩行時など患者の安全に十分注意を払うこと。高齢者は歩行速度が遅いことなどに留意し、患者に合わせた行動をとること。
- 6) 問題点が生じたときは早めに教員に連絡のこと。
- 7) エスコート中に知り得た患者個人に関する情報を他に漏らさないこと。
- 8) 遅刻・欠席の場合は必ず担当教員もしくは教務担当に連絡すること。
- 9) 病棟内で携帯電話の電源を入れないこと。
- 10) 終了時の教員への連絡を忘れないこと。

ユニット#2 病院見学実習

病院ツアー「病院の仕組みを知る」

Coordinator：大原 信（医学医療系）

1. はじめに

病院で行われる医療は医師や看護師だけの力では実行することができません。皆さんが、将来、医師として働く現場がどのような人たちによりどのように支えられているかを知ることが、医療チームをリードする医師にとって重要なことです。これら多職種の人々の役割とシステムに精通し、上手に連携することは皆さんの行おうとする医療の質を高めることに大変役立ちます。

2. 一般目標 GIO

病院の仕組みを理解することにより、患者中心の無駄のない医療をチームで安全に行える医師になるための基本を身につける

3. 学習行動目標 SBOs

- 1) 病院の提供している各種サービスを分類して述べるができる。
- 2) 診療活動を支援している部門を列記することができる。
- 3) それぞれの部門がどのようなサービスを誰に対して提供しているかについて概略を述べるができる。
- 4) 医療現場を見ることにより、現在の問題点をいくつか数え上げられる。
- 5) チーム医療、医療連携の意義について説明できる。

4. 実習内容

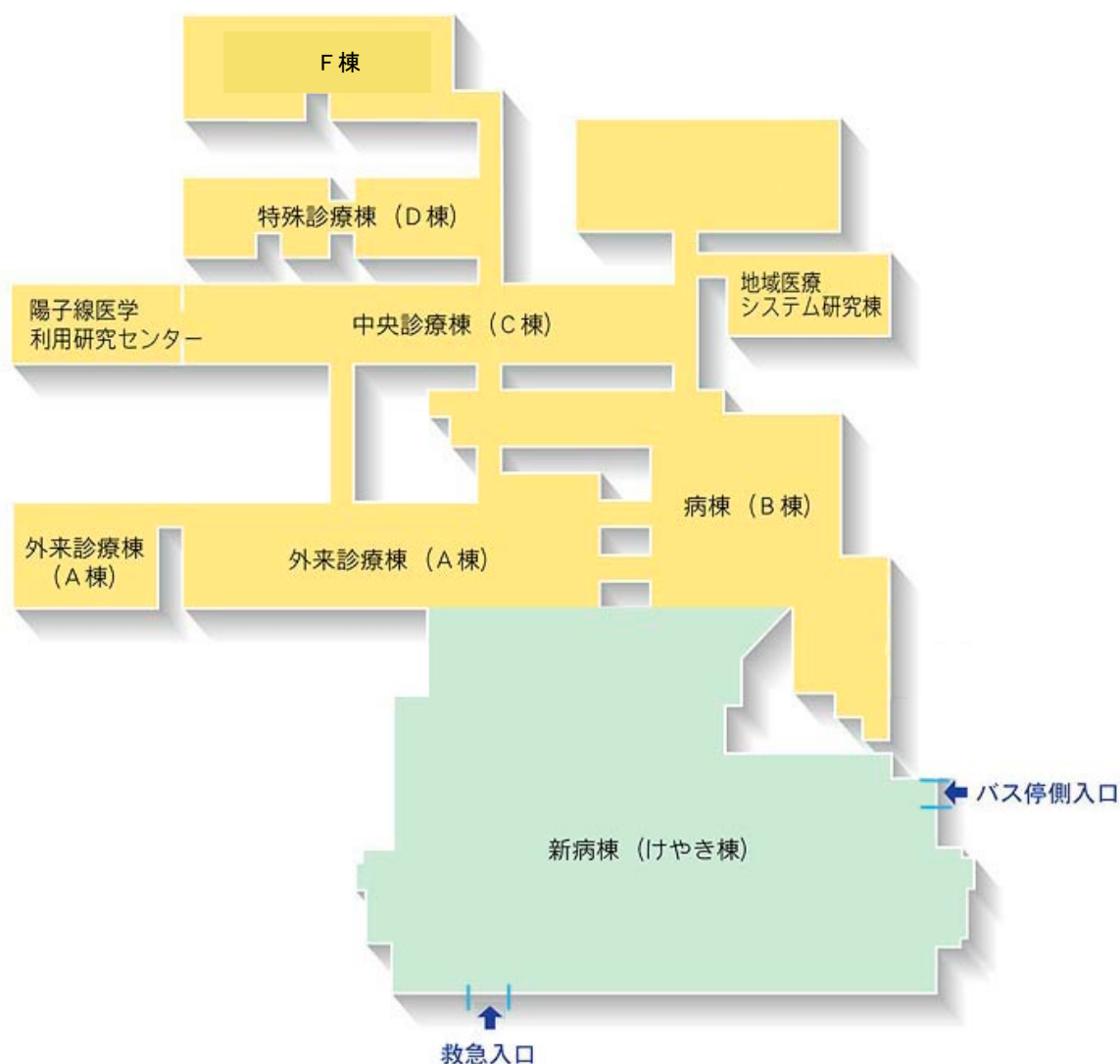
集合場所：臨床講義室D

- 1) 2日間かけて、院内のバックヤード機能を担う代表的な部門を4カ所/日、診療全体を側面から支援する部門4カ所/日を順次ツアーし、その部門のスタッフとのコミュニケーションを通じて機能と役割を理解し、あわせて現場を見学することにより職場の環境について合理性や問題点を考察する（各20分程度）。
- 2) ガイド役の指導教員からは
 - ① このような病院の「パーツ」がトータルとしての病院の活動にいかに重要で不可欠か
 - ② 安全かつ快適な診療環境を実現するためにそれぞれのスタッフがどのような貢献をしているか
 - ③ 皆さんが医師として働く際これらのリソースをいかに有効に利用できるかなどにつき総括的な説明があります。
- 3) 実習中は白衣着衣と名札の着用を厳守する。白衣の下着も社会人として節度のあるものとする。
- 4) ツアー終了後、教室（集合場所）に一旦戻り、指定された様式のレポートをまとめ、実習当日中にエントランスホール脇レポート Boxに提出すること。

※注意

- ・白衣・名札のなき者、服装が医学生の実習施設見学としてふさわしくないと判断された者は実習に参加できない場合があります。
- ・ツアーのため、遅刻厳禁（集合時間を守る）。遅刻した場合、実習参加と認められない場合があります。

病院ツアーコースガイド



時間がずれる場合は移動前に次の部門に連絡をお願いいたします。

	部門	階	対応者
コース1	1. 感染管理室	B 棟 4 階	人見重美室長、堤副看護師長
	2. 栄養管理室／厨房	A 棟地下	岩部博子管理栄養室長
	3. 物流センター	B 棟地下	山本純偉講師、木村勝職員
	4. 患者サービス課	B 棟 1 階	澤邊課長、酒井主幹
コース2	5. 医療連携患者相談センター	B 棟 1 階	濱野淳センター長、鈴木副課長
	6. 薬剤部	けやき棟 1 F	本間真人部長、土岐副部長
	7. 医療情報経営戦略部	けやき棟 2 F	山中シニアスタッフ
	8-1 臨床医療管理部	B 棟 3 F	本間覚部長／池田師長
	8-2 病歴室	A 棟 4 F	香川室長、森田診療情報管理士

ユニット#3 コミュニケーション実習

Coordinator： 前野哲博（医学医療系）

1. 一般目標 GIO

臨床医として重要な患者－医師関係の構築について学ぶことで医学生としてのモチベーションを高めるために、模擬患者とのロールプレイを通してコミュニケーションの意義及びその重要性を理解する。

2. 学習行動目標 SBOs

- (1) 医療面接の持つ3つの役割（患者理解の為の情報収集、信頼関係（ラポール）の形成、患者教育と治療への動機付け）を説明できる。
- (2) 医療面接に必要な環境整備ができる。
- (3) 医療面接における、傾聴・受容・共感について説明できる。
- (4) 良好な患者－医師関係の構築の重要性を述べる。
- (5) 自分の話し方、言葉遣い、服装などが相手にどう受け止められているか、客観的に説明できる。

3. 実習内容

集合場所： 4A322 集合時間：15:15

（必ず、白衣と名札を着用のこと。本オリエンテーション資料を持参のこと。）

(1) 進め方

3～4人×7グループで実習する。

①ロールプレイ

SP（模擬患者）の方に協力いただき、学生は全員が医師役で5分間のロールプレイを行う。
ロールプレイ終了後、SPを交えてディスカッションする。

②ロールプレイの進め方

- 1) 面接5分
- 2) 医者役振り返り
- 3) 観察者振り返り
- 4) SPの感想、シナリオ開示
- 5) 討論

③グループ討論、全体討論

ロールプレイ全体を通して気づいたこと、学んだことについてグループで話し合う。最後に全体討論を行う。

※SP（Simulated patient、模擬患者）

医療面接実習教育の現場において医学生の相手になって模擬の又は標準的な患者役を演ずる者である。患者・市民の立場のSPスタッフが、性格・生い立ち・生活環境などを詳しく設定した患者になりきって、ロールプレイを行う。振り返りでは、その患者として気づいたこと、感じたことを率直に医療者役にフィードバックする。

SPを用いる利点として、以下の点が挙げられる。

- ・いつでも、どこでも協力してもらえる
- ・何回でも繰り返して行える
- ・患者に関する議論がその場でできる
- ・本物の患者に害が及ばない

(2) タイムテーブル (実施日によって異なります)

15:15－15:20	準備・説明
15:20－15:40	ロールプレイ 1 回目
15:42－16:02	ロールプレイ 2 回目
16:02－16:10	休憩
16:10－16:30	ロールプレイ 3 回目
16:32－16:52	ロールプレイ 4 回目
16:52－17:05	グループ討論
17:05－17:20	挨拶全体発表・まとめ

(3) レポート

原則、翌週の火曜日の 17:00 までに 4A 棟 2 階エントランスホール脇 レポート Box に提出する。

ユニット#4 リハビリテーション実習、救急実習

実習方法：5 時限目にリハビリテーション部実習を行い、その後、6 時限目に救急実習を行う。

サブユニット#1 リハビリテーション実習

Coordinator: 羽田 康司（医学医療系）

1. 一般目標 GIO

患者の日常生活に生じる不自由さを視野に入れたチーム医療を指向できるようになるために、見学と体験を通じて医療におけるリハビリテーションの意義を理解する。

2. 学習目標 SBOs

- 1) リハビリテーション医療を担う職種を説明できる。
- 2) 日常生活における基本的な動作の不自由な状態を指摘できる。
- 3) 心身の障害を有しながら自立度を向上させる意義を述べられる。

3. 学習内容

集合場所：附属病院 C 棟 2F リハビリテーション部 集合時間：15：15 （必ず白衣と名札を着用）

- 1) 見学：リハビリテーション部で仕事しているスタッフ（医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の説明を聴き、事例を通して学ぶ。
- 2) 体験：理学療法、作業療法、言語聴覚両方の体験を数名ずつが代表して行う。

リハビリテーション部実習終了後、引き続き、学群棟 3 階 303 臨床技能実習室で救急部実習を行う。

サブユニット#2 救急実習

Coordinator：井上 貴昭（医学医療系）
河野 了（医学医療系）

1. 一般目標 GIO

一市民あるいは臨床医として、救命救急現場において一次蘇生が実践できるようになるために、Basic Life Support (BLS) の手法について学ぶ。

2. 学習行動目標 SBOs

- 1) Basic Life Support (BLS) の意義・重要性を理解する
- 2) BLS の手技を実践する。

3. 学習内容 集合場所：学群棟 3 階 303 集合時間：16：45 （必ず白衣と名札を着用）

- 1) BLS のビデオを見て、その手順を学習する。
- 2) ビデオの手順を見本にして、トレーナーで実際に BLS の実習を行う。
- 3) 1 グループ 5～6 名 × 5 グループ
- 4) 実習終了後、講義室（4A304）に一旦戻り、指定された様式のレポートをまとめ（リハビリテーション、救急実習共に）、実習日にエントランスホール脇のレポート提出 Box に提出すること。

※服装について

実習時は動きやすい服装（ズボン、スラックス、運動靴）を心がける。スカート、胸元の開いた服、サンダル、つっかけ、かがむと背中が見えそうな服、口紅はさけてください。

ユニット#5 高齢者/妊婦模擬体験実習

Coordinator : 渡邊 雅彦 (医学医療系)

1. 一般目標 GIO

高齢者／妊婦の側に立った視点を实际的体験を通じて理解する。

2. 学習行動目標 SBOs

- 1) 妊婦と高齢者の身体的な不自由さとその程度を述べる。
- 2) 望ましい医師の在り方について述べる。

3. 実習方法

集合場所 : 4B 棟(看護・医療科学類)2 階 203

集合時間 : 15 : 15

注意事項 : ・厚手の靴下を履いて履けるような、ゆるめの靴を履いてきて下さい(スニーカー等)
・貴重品等を持ち運べる大きさのバッグを用意できる人は持ってきて下さい。

- 1) 1 回 13～14 名で実習する。

高齢者用・妊婦用装具のどちらかをグループ内でお互いに介助し合って装着する。その後、一定時間装具をつけたまま室内・室外でいろいろ行動してみる(天候により変更あり)。行動範囲は大学構内敷地内とする。

2) タイムテーブル

15:15－15:30 オリエンテーション、諸注意等を担当教員が行う
15:30－16:00 装具装着
16:00－17:00 実際行動
17:00－17:20 装具後片付け
17:20～ ディスカッション、まとめ

ユニット#6 研究室紹介

Coordinator : 佐藤 豊実 (医学医療系)

1. 一般目標 GIO

筑波大学の医学系研究室で行われている最新の研究内容を知り、医学研究の面白さと多様性を理解する。

2. 学習行動目標 SBOs

- 1) どのような研究が行われているかを列挙する。
- 2) 研究室紹介の内容に関して質問する。

3. 学習方法

4A203 講義室で、毎回 4~5 グループに研究紹介をしていただく。

30年度研究室紹介日程

日時	曜日	時間	グループ名	担当者	日時	曜日	時間	グループ名	担当者
4月17日	火	15:15 ~ 16:30	膠原病・リウマチ・アレルギー内科	松本 功	5月22日	火	15:15 ~ 16:30	形成外科	関堂 充
			解剖学・神経科学	武井 陽介				内分泌代謝、糖尿病学	島野 仁
			臨床試験・臨床疫学	我妻 ゆき子				整形外科	野澤 大輔
			放射線腫瘍学	櫻井 英幸				地域医療教育学	前野 哲博
4月24日	火	15:15 ~ 16:30	法医学	本田 克也	5月29日	火	15:15 ~ 16:30	放射線診断・IVR	南 学
			分子ウイルス学	川口 敦史				神経内科	玉岡 晃
			小児外科	高安 肇				救急医学	下條 信威
			呼吸器外科	後藤 行延				放射線生物学	孫 略
5月1日	火	15:15 ~ 16:30	環境生物学	熊谷 嘉人	6月5日	火	15:15 ~ 16:30	血液内科	日下部 学
			呼吸器科	森島 祐子				神経生理学	松本 正幸
			臨床薬剤学	土岐 浩介				福祉医療学	市川 政雄
			実験病理学	鈴木 裕之				循環器外科	坂本 裕昭
5月8日	火	15:15 ~ 16:30	診断病理学	坂下 信悟	6月12日	火	15:15 ~ 16:30	分子神経生物学	榎 正幸
			眼科	岡本 史樹				腎臓内科	臼井 丈一
			脳神経外科	鶴嶋 英夫				腎泌尿器外科	神鳥 周也
			保健医療政策学・医療経済学	近藤 正英				システム神経科学	設楽 宗孝
5月15日	火	15:15 ~ 16:30	循環生理学	小金澤禎史	6月19日	火	15:15 ~ 16:30	小児科	福島 紘子
			免疫学	渋谷 彰				精神神経学	井出 政行
			分子遺伝疫学・社会健康医学	土屋 尚之				麻酔科	猪股 伸一
			ヘルスサービスリサーチ	田宮 菜奈子				産婦人科	佐藤 豊実

筑波大学附属病院建物配置図

屋階 2F			屋上ヘリポート、機械室				
屋階 1F			機械室、設備機器置場	高置水槽			
12F			展望ラウンジ	機械室			
11F			病床75床(一般)				
10F			病床88床(一般)				
9F			病床88床(一般)	国際戦略総合特区推進室 未来医工融合研究センター			
8F			病床88床(一般)	病床37床(一般)			
7F			病床88床(一般)	病床41床(精神)、 認知症疾患医療センター			
6F			病床(小児・無菌)	病床74床(一般)			
5F			病床62床(NICU、GCU、 MFICU、産科)	病床37床(一般)	機械室		
4F	機械室	医療情報部、機械室	I S S	国際連携推進室 看護部	手術シミュレータ室		
3F	外来診察	食堂	手術部	再開発推進室、総務課、 経営管理課、整備推進課	検体検査、病理部、 輸血部、THDC		
2F	外来診察	外来診察	病床48床(ICU:成人、 ICU:小児、HCU) 血液浄化療法部、医療情報部	看護部、 総合がん診療センター	機能検査、 リハビリテーション部、 産学医療診療部		地域医療システム 研究開発室
1F	外来診察	外来診察	救急部、 画像診断(MRI、CT、一般)、 薬剤部、けやきプラザ	医事課、 医療連携患者相談センター、 臨床研究推進・支援センター	X線診断、核医学	放射線治療	総合臨床教育センター スキルスラボセンター
BF		給食、倉庫	物流センター、機械室、 電気室	物流センター	洗濯室、解剖室、 機械室	倉庫	地域医療 システム研究棟
	A棟		けやき棟	B棟	C棟	D棟	F棟

24

